

教師用 指導案

1. テーマ・授業名

テーマ1 パラリンピックの価値

授 業1 「パラリンピックってなんだろう？」

2. 授業の目標

- ・パラリンピックの特徴や発展について学び、諦めないことの大切さや、限界に挑戦することの尊さ、工夫すればできることが増えるという気持ちを醸成する。
- ・東京大会を経て、改めてパラリンピックを振り返るとともに、「今後もパラリンピックを見たい!」「パラリンピックについてもっと学びたい!」「自分も関わりたい!」という気持ちになる。
- ・パラリンピック大会の究極の目的である共生社会の構築、すなわち「年齢、性別、人種、障害の有無などに関わらず、全ての人の基本的人権が尊重され、誰でも公平・公正に自分の意思で選択できる社会をつくるにはどうすればよいか、何ができるのか」について考えるきっかけとなる。

3. 本時の位置づけ

- ・総合的な学習の「福祉」の授業での活用。
- ・中学校では、道徳の「他者の理解」「共生社会」などの視点における事例学習として活用。
- ・保健体育の「体育理論」において、スポーツへの多様な関わり方、スポーツの文化的意義、国際的スポーツ大会の役割、人々を結びつけるスポーツ、などと結びつけ活用。
※その他、学級活動や学年集会などの時間を活用してもよい。

4. 指導の留意点、工夫点

- ・パラリンピックについてあまり知らないことを前提とした展開をとっている。クラスの状態に合わせて、導入方法を適宜変えるとよい。
- ・教師の一方的な説明にならないように、生徒の気づきを大切にし、より興味を持てるような展開（クイズや映像の使用）に留意する。
- ・創意工夫や諦めない気持ちを持つことの大切さは、パラリンピアン（パラリンピックに出場したことのある選手）に限ったことではなく、自分たちも同じであることに気づかせたい。
- ・パラリンピックの意義、共生社会の構築について自分の意見を持ち、各自が自分の言葉で表現できるように指導を工夫する。

5. 準備物

- ・授業用シート (1-1)
- ・教師用授業ガイド (1-1)
- ・生徒用ワークシート (1-1)
- ・映像資料：東京 2020 ダイジェスト「Tokyo 2020's Most Emotional Moments」



〈展開案〉 ※ 【 】内は経過時間

| 時間 | 学習活動 (引き出したい生徒の言葉) | 指導上の留意点・配慮事項 (教師の活動) | 準備物／教師参照物 |
|--|--|---|---|
| 導入 (15分) 【15分】 目安 映像：3分 個人ワーク：3分 発表：9分 | <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> 【パラリンピックってなんだろう？】 </div> <p>(1) 東京 2020 パラリンピックの映像を見て振り返り、感想や疑問点を共有する。 ・映像を見る。 ・ワークシートに感想を記入する。</p> <p>(2) これからパラリンピックについて学ぼうという意識を高める。 ・発表する。 「かっこいい」 「いろいろ工夫していると思った」 ・パラリンピックの意義と価値を知る。</p> | <p>(1) 導入は以下に2つを例示するが、クラスの学習経験、パラリンピックの知識によって変えてよい。 導入① 「パラリンピックについて知っていること」について発表させ、パラリンピックについて学ぶ姿勢をつくった後に、映像を見せる展開。 導入② 東京 2020 パラリンピックをテレビなどで観戦したかを尋ね、映像を見せた後、改めて大会について知っていることや大会の感想を発表させる。</p> <p>(2) ・板書をする、または A3 にプリントアウトした授業用シートを黒板に貼ると効果的である。 ・発表は様々なパラリンピックへの気持ちを上げたい。そして、東京 2020 パラリンピック大会のことや、大会をきっかけに、社会がどのように変わっているのかについて学習意欲を持たせる。 ・発表を行った後、「パラリンピックの価値」について解説を行う。</p> | ・授業用シート (1-1) ・教師用授業ガイド (1-1) ・生徒用ワークシート (1-1) ・映像資料：東京 2020 ダイジェスト |
| 展開① (10分) 【25分】 | <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> 【クイズで知ろう！ パラリンピック】 </div> <p>クイズに取り組むことで、パラリンピックへの興味関心を深める。</p> | ・ワークシートへの答えの記入は、状況を見て実施する。挙手でテンポよく進めてもよい。 ・どのクイズも写真をよく見せて、既知の学習事項なども取り上げることで、生徒の解答への思考を促す。 ※クイズは全5問用意してあるが、3問程度を選択してもよい (出題しないクイズの内容は、プラスアルファ情報として提供するなど工夫をする)。 | ・授業用シート (1-1) ・教師用授業ガイド (1-1) ・生徒用ワークシート (1-1) 【教師参照】 ・教師用ハンドブック |

| 時間 | 学習活動 (引き出したい生徒の言葉) | 指導上の留意点・配慮事項 (教師の活動) | 準備物／教師参照物 |
|--|---|---|--|
| 展開② (15分) 【40分】 目安 解説：5分 ディスカッション： 10分 | | <ul style="list-style-type: none"> ・教師用授業ガイドのプラスアルファ情報は、すべて伝えなくてもよい。また、単に伝えるのではなく、「どういった特徴があるのか」「何のためか」など、生徒を巻き込み、もっと調べたい、知りたいという気持ちにさせる。 ・教師が知らないことがあっても、「先生も知りたいから、一緒に調べていこう」と、一緒に学ぶ姿勢を見せることで、答えは自分たちが調べたり、考えたりして導き出すことに気づかせる。 | 【教師参照】 ・教師用ハンドブック |
| | 【パラリンピックの進化】 (参加国・地域が増えてきたのはなぜ?) <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックに参加する国・地域が増加した理由をグループごとに考える。 ・発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの誕生について、解説を行う。 ・ディスカッションは、「障害のある人たちのスポーツをする権利が認識されたり、社会の中にあるバリアを減らすことの必要性に気づく人が増えてきた」ことに気づかせるように助言を行う。 | |
| まとめ (10分) 【50分】 | 授業を振り返り、東京 2020 大会を契機とした社会の変化について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 ・発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・1964 年大会と「太陽の家」の関連や、2020 年大会に向けて進められた東京メトロの事例を見せた上で、2020 年をきっかけに社会がどのように変わったかを考えさせる。 ※ホームドアなどのインフラ面での充実も重要であるが、人の意識を変えることも大切な役割であったことに気づくように助言を行う。 〈助言例〉 「様々な人たちの人権が尊重され、誰もが共に生き生きと暮らすことのできる社会（共生社会）ってどんなだろう？」 「そのために自分たちにできることって何か？」 <ul style="list-style-type: none"> ・時間があれば、最後にもう一度学習した内容を振り返ることで今後の学習意欲につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業用シート (1-1) ・教師用授業ガイド (1-1) ・生徒用ワークシート (1-1) |
| | 【東京 2020 パラリンピック競技大会をきっかけに、社会はどのように変わっていくかな?】 | | |